

# ウォータークリーン工法採用時のお願い事項

ウォータークリーン工法のご採用大変ありがとうございます。

ウォータークリーン工法の性能を最大限に発揮させるためそして安全性を担保するために、設計図面記入時に下記仕様にて明記をお願いいたします。

## 工法名

仕上げ塗材の撤去工法	
壁面等の場合	ウォータークリーン工法又は、集じん装置付き超高压水洗工法(100MPa)以上
狭小部・入隅等の場合	ウォータークリーンSG工法又は、湿式集じん装置付きディスクグラインダー工法

## 環境基準に適合した廃水処理及び除去材について

水処理(廃水処理内容)	環境測定値 環境測定を行い排出基準に準拠した状態で放流を行う
浮遊物質 (SS)	600mg/ℓ未満
PH	PH5を超え9未満
アスベスト含有量	アスベスト検出限界値以下50 f/ℓ

産廃処理(除去材)	フレコンバッグ梱包のまま排出されるので安心
廃材排出	フレコンバッグ+ビニール袋2重梱包
廃材処理	特別産業廃棄物として排出

## 飛散防止のためにできる機器性能について

吸引装置の圧力と風量	確実な吸引性能を担保し施工を行う
吸引圧力/真空圧	-50～-90kpa
風量	20～40m <sup>3</sup> /min

吸引時の排気 濾過	気中のアスベストも確実に濾過
排気濾過方法	ジェットスクラバ方式(水を使用し微小粒子、有毒ガス、粉塵などを水とジェット混合させ有害成分を除去する方法)

吸引から処理まで	
一貫密閉式処理	吸引した廃材と汚水が外気に触れることなく、一貫処理を行う

特記事項をまとめたフォーマットデータの提供も可能です。お問い合わせください。

sample

## 特記事項例

### 【アスベスト含有仕上塗材除去工事】

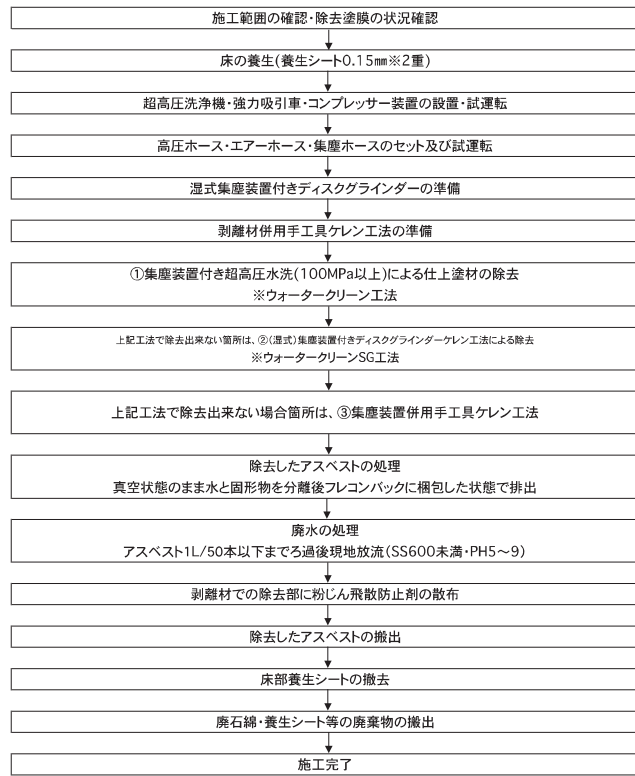
(ウォータークリーン工法 NETIS登録番号 CB-160029-A同等)工法

1. 集塵装置付き超高压水洗工法(100MPa以上)・同時吸引式
2. 1が使用できない場合は湿式集塵装置付きディスクグラインダーケレン工法・同時吸引式(ウォータークリーンSG工法)
3. 狭巾部の1・2が使用できない場合は集塵装置併用手工具ケレン工法を併用可
4. 吸引機は吸引圧力-50~-90kpa・風量20~40m<sup>3</sup>/minを使用

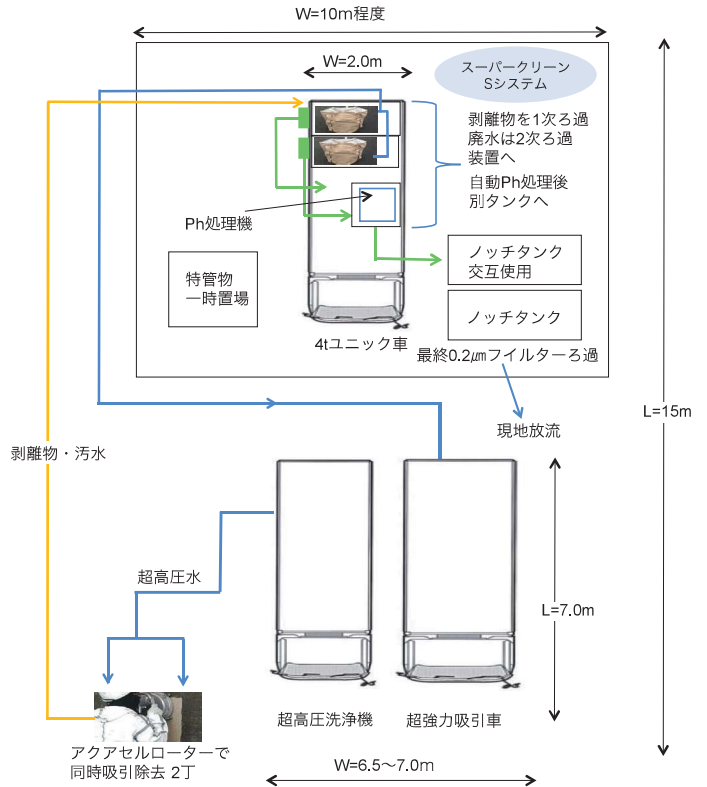
### 【廃材処理】

- ※強力吸引車を使用した同時吸引式工法により除去した塗膜と廃水を外気に触れることなく密閉状態で安全に集積・分別をする
- ※分別した塗膜はフレコンバックに集めたのちビニール袋で2重梱包し特別管理産業廃棄物として集積した後最終処理場にて処分する
- ※廃水はアスベスト50本/1L以下まで濾過し、SS600未満・PH5~9を遵守し第三者機関による水中分析測定を行い条件を満たしたことを確認後現地放流をする
- ※吸引時の排気ろ過はジェットスクラバろ過方式を採用し大気へ開放する

【アスベスト含有仕上塗材除去工事フロー図】



【同時吸引式プラント設置図(平面図)】



### 【アスベスト粉じん濃度測定】

アスベスト粉じん濃度測定を下記により行う。測定方法はJIS K3850-1により実施し、速報値で10f/l以下であることを確認すること

測定時期	測定点
処理作業前	作業する建築物等の周辺4方向各1点 合計4点
処理作業中	作業する建築物等の周辺4方向各1点 合計4点
処理作業後	作業する建築物等の周辺4方向各1点 合計4点

### 【除去したアスベスト等の保管、運搬、処分等】

除去したアスベスト含有材等を搬出するまでの間現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の建設副産物等と分別して保管するものとし、シートで覆うなど飛散防止措置を講じる。また、保管場所にはアスベスト等の保管場所であることを提示する。  
アスベスト含有材等の運搬車及び運搬容器は、アスベスト含有材等が飛散及び流出するおそれのないものとする。  
また、運搬車の荷台に覆いをかけるなど飛散防止措置を講ずる。  
除去したアスベスト含有材の処分は特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立て処分する

### 【除去工事に関する各種届出等】

大気汚染防止法及び石綿障害予防規則を遵守すること。  
建築工事計画届(労働安全衛生法)、特定粉じん排出等作業の実施の届出(大気汚染防止法)の作成及び届出を適切に行うこと。  
※その他必要な手続き等がある場合は適切に行うこと